

§ 4 公害対策

I 大気

1 大気汚染等にかかる環境基準

(1) 環境基準

環境基準とは、大気の汚染等にかかる環境上の条件について、人の健康を保護し、および生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準として政府が定めるものであり、大気汚染関係の環境基準については次のように定められています。

この環境基準は、工業専用地域、車道、その他一般公衆が通常生活していない地域または場所については、適用されません。

(環境基本法第16条、昭和48年環境庁告示第25号、昭和53年環境庁告示第38号、平成9年環境庁告示第4号、平成11年環境庁告示第68号、平成13年環境省告示第30号、平成21年環境省告示第33号、平成30年11月環境省告示第100号)

物質	環境上の条件
二酸化窒素	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下であること。
浮遊粒子状物質	1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。
光化学オキシダント	1時間値が0.06ppm以下であること。
二酸化硫黄	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。
一酸化炭素	1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。
ベンゼン	1年平均値が0.003mg/m ³ 以下であること。
トリクロロエチレン	1年平均値が0.13mg/m ³ 以下であること。
テトラクロロエチレン	1年平均値が0.2mg/m ³ 以下であること。
ジクロロメタン	1年平均値が0.15mg/m ³ 以下であること。
ダイオキシン類	1年平均値が0.6pg-TEQ/m ³ 以下であること。
微小粒子状物質	1年平均値が15μg/m ³ 以下であり、かつ、1日平均値が35μg/m ³ 以下であること。

[参考] 光化学オキシダントの生成防止のための大気中炭化水素濃度の指針（昭和51年8月13日中央公害対策審議会答申）

光化学オキシダントの日最高1時間値0.06ppmに対応する午前6時から9時までの非メタン炭化水素の3時間平均値は、0.20ppmCから0.31ppmCの範囲にある。

(2) 環境基準の評価方法

環境基準の評価方法は、短期的評価と長期的評価があります。

通達では、二酸化硫黄*¹、一酸化炭素*¹、浮遊粒子状物質*¹については短期的評価と長期的評価の二つの方法が、二酸化窒素*²、微小粒子状物質*³については長期

的評価、光化学オキシダント*¹については短期的評価が定められています。

一般に、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、二酸化窒素については健康に慢性影響を及ぼすことから長期的評価、一酸化炭素、光化学オキシダントについては急性影響を及ぼすことから短期的評価が使われています。

ア 短期的評価

測定を行った日についての1日平均値、8時間値、または各1時間値を環境基準と比較して評価を行います。

イ 長期的評価

(ア) 二酸化硫黄、一酸化炭素、浮遊粒子状物質の場合

年間の1日平均値のうち、高い方から2%の範囲内にあるもの(365日分の測定値がある場合は7日分の測定値)を除外した後の最高値(2%除外値)を、環境基準と比較して評価します。ただし、環境基準値を超える日が2日以上連続した場合には、非達成と評価します。

(イ) 二酸化窒素の場合

年間の1日平均値のうち、低い方から98%に相当するもの(98%値)を、環境基準(0.06ppm)と比較して評価します。

(ウ) 微小粒子状物質の場合

測定結果の年平均値を長期基準(1年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下)と比較するとともに、年間の1日平均値のうち、低い方から98%に相当するもの(98%値)を短期基準(1日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下)と比較して評価を行います。

(ア)、(イ)は年間の測定時間が6,000時間未満のもの、(ウ)は年間の有効測定日(1日20時間以上の測定時間を有する日)が250日未満のものは評価することができません。)

※ 環境庁および環境省通達

- *1 昭和48年6月12日付環大企第143号「大気汚染に係る環境基準について」
- *2 昭和53年7月17日付環大企第262号「二酸化窒素に係る環境基準の改定について」
- *3 平成21年9月9日付環水大総発第090909001号「微小粒子状物質による大気汚染に係る環境基準について」

2 大気汚染常時測定

東京都では、本市役所に一般環境大気測定局（呼称：青梅）を設置し、次の項目について測定をしています。

(1) 二酸化窒素（NO₂）の測定結果

項 目		年 度					
		27	28	29	30	元	2
環境基準達成状況		○	○	○	○	○	○
日平均値の98%値 (ppm)	青梅	0.017	0.015	0.016	0.017	0.013	0.013
	多摩部最大	0.035	0.033	0.036	0.037	0.029	0.032
多摩部適合状況	局数	17/17	17/17	17/17	16/16	16/16	16/16
	適合%	100	100	100	100	100	100
都適合状況	局数	44/44	44/44	44/44	43/43	43/43	43/43
	適合%	100	100	100	100	100	100
時間値の年平均値 (ppm)	青梅	0.008	0.007	0.008	0.007	0.006	0.006
	多摩部平均	0.014	0.013	0.013	0.012	0.011	0.011
日平均値が0.04ppmを超えた日数 (日)	青梅	0	0	0	0	0	0
	多摩部合計	0	6	3	2	0	8
日平均値が0.06ppmを超えた日数 (日)	青梅	0	0	0	0	0	0
	多摩部合計	0	0	0	0	0	0
日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数 (日)	青梅	0	0	0	0	0	0
	多摩部合計	0	8	3	3	0	10
日平均値の最大値 (ppm)	青梅	0.025	0.019	0.019	0.023	0.017	0.017
	多摩部最大	0.039	0.047	0.043	0.041	0.039	0.046

(2) 浮遊粒子状物質（SPM）の測定結果

項 目		年 度					
		27	28	29	30	元	2
環境基準達成状況		○	○	○	○	○	○
日平均値の2%除外値 (mg/m ³)	青梅	0.039	0.031	0.030	0.031	0.031	0.032
	多摩部最大	0.054	0.048	0.042	0.051	0.056	0.047
多摩部適合状況	局数	19/19	19/19	19/19	18/18	18/18	18/18
	適合%	100	100	100	100	100	100
都適合状況	局数	47/47	47/47	47/47	46/46	46/46	46/46
	適合%	100	100	100	100	100	100
時間値の年平均値 (mg/m ³)	青梅	0.014	0.012	0.012	0.012	0.011	0.010
	多摩部平均	0.017	0.016	0.016	0.016	0.014	0.013
日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数 (日)	青梅	0	0	0	0	0	0
	多摩部合計	0	0	0	0	0	0
1時間値が0.20mg/m ³ を超えた時間数 (時間)	青梅	0	0	0	0	0	0
	多摩部合計	1	2	0	0	0	1
日平均値の最大値 (mg/m ³)	青梅	0.049	0.050	0.035	0.045	0.040	0.048
	多摩部最大	0.086	0.074	0.056	0.074	0.080	0.070
環境基準を超えた日が連続した時の延日数 (日)	青梅	0	0	0	0	0	0
	多摩部合計	0	0	0	0	0	0

(3) オキシダント (O_x 5~20時) の測定結果

項 目	年 度						
	27	28	29	30	元	2	
環境基準達成状況	×	×	×	×	×	×	
時間値の年平均値 (ppm)	青梅	0.034	0.033	0.035	0.035	0.034	0.033
	多摩部平均	0.033	0.033	0.034	0.034	0.034	0.033
多摩部適合状況	局数	0/17	0/17	0/17	0/16	0/16	0/16
	適合%	0	0	0	0	0	0
都適合状況	局数	0/41	0/41	0/41	0/40	0/40	0/40
	適合%	0	0	0	0	0	0
1時間値が0.06ppmを超えた日数 (日)	青梅	98	86	106	94	96	78
	多摩部合計	1695	1413	1715	1544	1473	1263
1時間値が0.06ppmを超えた時間数 (時間)	青梅	539	454	542	538	512	370
	多摩部合計	9028	7381	8678	8626	7621	6252
1時間値が0.12ppm以上の日数 (日)	青梅	4	0	2	2	1	0
	多摩部合計	106	30	22	48	34	12
1時間値が0.12ppm以上となった時間数 (時間)	青梅	9	0	2	3	2	0
	多摩部合計	231	48	37	89	61	15
日平均値の最大値 (ppm)	青梅	0.090	0.071	0.082	0.075	0.083	0.070
	多摩部最大	0.101	0.076	0.088	0.093	0.087	0.074

(4) 二酸化硫黄 (SO₂) の測定結果

項 目	年 度						
	27	28	29	30	元	2	
環境基準達成状況	○	○	○	○	○	○	
日平均値の2%除外値(ppm)	青梅	0.002	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001
	多摩部平均	0.003	0.003	0.002	0.002	0.001	0.002
多摩部適合状況	局数	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9
	適合%	100	100	100	100	100	100
都適合状況	局数	20/20	20/20	20/20	20/20	20/20	20/20
	適合%	100	100	100	100	100	100
時間値の年平均値(ppm)	青梅	0.002	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000
	多摩部平均	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.000
日平均値が0.04ppmを超えた日数 (日)	青梅	0	0	0	0	0	0
	多摩部合計	0	0	0	0	0	0
1時間値が0.1ppmを超えた時間数(時間)	青梅	0	0	0	0	0	0
	多摩部合計	0	0	0	0	0	0
日平均値の最大値 (ppm)	青梅	0.003	0.003	0.001	0.002	0.001	0.001
	多摩部最大	0.004	0.004	0.003	0.004	0.005	0.003
環境基準を超えた日が連続した時の延日数 (日)	青梅	0	0	0	0	0	0
	多摩部合計	0	0	0	0	0	0

(5) 一酸化炭素 (CO) の測定結果

項 目		年 度					
		27	28	29	30	元	2
環境基準達成状況		○	○	○	○	○	○
日平均値の2%除外値 (ppm)	青梅	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4
	多摩部最大	0.4	0.5	0.5	0.4	0.3	0.4
多摩部適合状況	局数	5/5	5/5	5/5	4/4	4/4	4/4
	適合%	100	100	100	100	100	100
都適合状況	局数	11/11	11/11	11/11	10/10	10/10	10/10
	適合%	100	100	100	100	100	100
時間値の年平均値 (ppm)	青梅	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
	多摩部平均	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
日平均値の最大値 (ppm)	青梅	0.4	0.4	0.3	0.5	0.3	0.4
	多摩部最大	0.7	0.7	0.6	0.5	0.5	0.5

(6) 微小粒子状物質 (PM2.5) の測定結果

項 目		年 度					
		27	28	29	30	元	2
環境基準達成状況		○	○	○	○	○	○
日平均値の年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	青梅	11.0	9.8	10.2	9.8	8.4	8.8
	多摩部平均	13.1	11.7	11.9	11.4	9.6	9.0
日平均値の98%値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	青梅	29.4	24.9	22.9	24.2	22.6	23.8
	多摩部最大	31.7	32.3	29.6	30.7	24.4	26.2
多摩部適合状況	局数	19/19	19/19	19/19	18/18	18/18	18/18
	適合%	100	100	100	100	100	100
都適合状況	局数	40/47	46/47	41/47	46/46	46/46	46/46
	適合%	85.0	97.9	87.0	100	100	100
日平均値の最大値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	青梅	35.8	33.8	26.4	29.2	26.5	29.4
	多摩部最大	44.4	47.8	41.1	37.4	33.3	32.0

※出典：大気汚染常時測定局測定結果報告 東京都環境局

3 光化学スモッグ（光化学オキシダント）

光化学スモッグは、大気中の窒素酸化物（NO_x）や炭化水素（HC）が太陽の紫外線を受けて、光化学反応を起こし生成される二次汚染物質が高濃度になって発生する現象で、目やのどなどの痛みを引き起こしたり、植物に被害を与えたりします。

東京都から学校情報、注意報、警報等が発令されると、各市民センター、学校等、関係機関に連絡し、看板等を設置し注意を呼び掛けています。

令和2年度に、本市が位置する多摩西部地域に発令された光化学スモッグ学校情報は3回でした。

なお、注意報、警報および重大緊急報の発令はありませんでした。

(1) 令和2年度発令日数 (単位：日)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	都合計
注意報発令日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
学校情報発令日数	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	17

(2) 過去の発令日数（平成27年度から令和元年度） (単位：日)

令和元年度

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	都合計
注意報発令日数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7
学校情報発令日数	0	3	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	6	16

平成30年度

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	都合計
注意報発令日数	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	9
学校情報発令日数	1	1	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	11	22

平成29年度

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	都合計
注意報発令日数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	20
学校情報発令日数	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	62

平成28年度

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	都合計
注意報発令日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
学校情報発令日数	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	5	15

平成27年度

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	都合計
注意報発令日数	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	4	14
学校情報発令日数	0	4	1	8	3	0	0	0	0	0	0	0	16	25

4 交差点等大気汚染調査

市では、大気汚染の原因の1つとされる二酸化窒素（NO₂）について、道路沿道等の局地的大気汚染状況と季節変動を把握するため、主要交差点等12か所において夏期・冬期の年2回調査を行っています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、夏季のみ調査を実施しました。

(1) 令和2年度の調査結果 (単位：ppm)

調査地点	二酸化窒素	
	夏期 (6.23~6.24)	冬期
青梅新町	0.017	-
友田	0.006	-
長淵七丁目	0.013	-
青梅市民会館南	0.011	-
御岳橋	0.007	-
成木五丁目	0.007	-
青梅四小前	0.013	-
梅郷四丁目	0.007	-
今寺	0.016	-
友田町4丁目	0.016	-
七日市場	0.017	-
新岩蔵大橋	0.010	-
平均	0.012	-

※二酸化窒素（NO₂）に係る環境基準…1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下であること。

※冬期調査は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

(2) 過去の調査結果（平成27年度から令和元年度） (単位：ppm)

§ 青梅新町

§ 友田

§ 長淵七丁目

項目 年度	二酸化窒素		項目 年度	二酸化窒素		項目 年度	二酸化窒素	
	夏期	冬期		夏期	冬期		夏期	冬期
元年度	0.023	0.017	元年度	0.016	0.018	元年度	0.015	0.017
30年度	0.023	0.022	30年度	0.024	0.020	30年度	0.018	0.017
29年度	0.024	0.025	29年度	0.022	0.021	29年度	0.016	0.013
28年度	0.019	0.017	28年度	0.015	0.017	28年度	0.011	0.012
27年度	0.021	0.028	27年度	0.020	0.028	27年度	0.017	0.024



§ 青梅市民会館南

項目 年度	二酸化窒素	
	夏期	冬期
元年度	0.013	0.010
30年度	0.014	0.015
29年度	0.015	0.012
28年度	0.011	0.011
27年度	0.014	0.021



§ 御岳橋

項目 年度	二酸化窒素	
	夏期	冬期
元年度	0.007	0.007
30年度	0.010	0.010
29年度	0.008	0.007
28年度	0.005	0.007
27年度	0.008	0.015



§ 成木五丁目

項目 年度	二酸化窒素	
	夏期	冬期
元年度	0.009	0.006
30年度	0.011	0.010
29年度	0.010	0.009
28年度	0.006	0.009
27年度	0.010	0.013



§ 青梅四小前

項目 年度	二酸化窒素	
	夏期	冬期
元年度	0.015	0.015
30年度	0.018	0.018
29年度	0.018	0.018
28年度	0.015	0.016
27年度	0.019	0.025



§ 梅郷四丁目

項目 年度	二酸化窒素	
	夏期	冬期
元年度	0.011	0.007
30年度	0.013	0.011
29年度	0.011	0.009
28年度	0.008	0.009
27年度	0.012	0.018



§ 今寺

項目 年度	二酸化窒素	
	夏期	冬期
元年度	0.018	0.011
30年度	0.023	0.022
29年度	0.028	0.017
28年度	0.015	0.010
27年度	0.016	0.021



§ 友田町4丁目

項目 年度	二酸化窒素	
	夏期	冬期
元年度	0.010	0.008
30年度	0.012	0.011
29年度	0.016	0.009
28年度	0.005	0.008
27年度	0.012	0.018



§ 七日市場

項目 年度	二酸化窒素	
	夏期	冬期
元年度	0.019	0.015
30年度	0.024	0.021
29年度	0.021	0.018
28年度	0.015	0.012
27年度	0.019	0.024

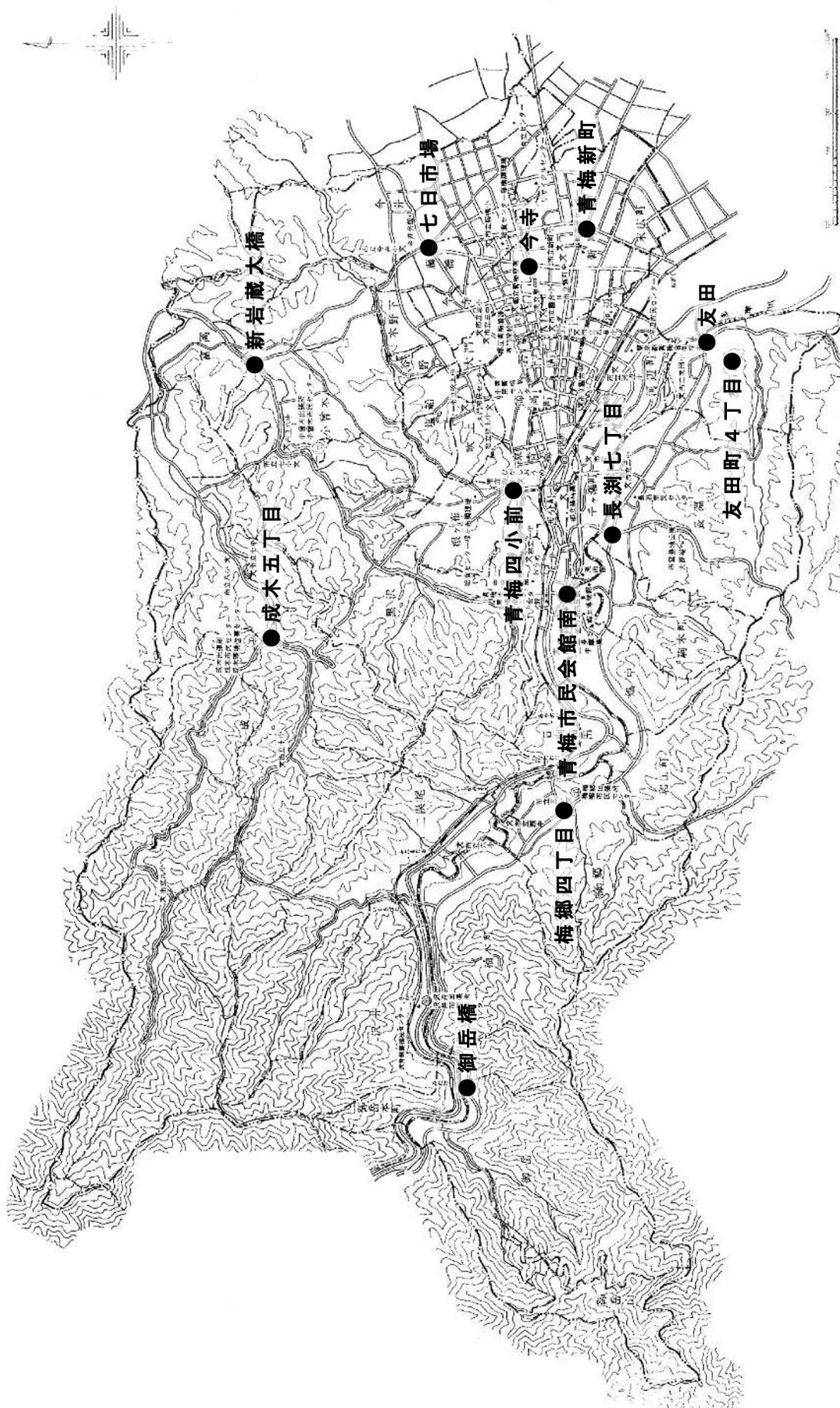


§ 新岩蔵大橋

項目 年度	二酸化窒素	
	夏期	冬期
元年度	0.014	0.012
30年度	0.015	0.014
29年度	0.017	0.014
28年度	0.009	0.010
27年度	0.014	0.019



交差点等大気汚染調査地点



5 大気中重金属調査

大気中の重金属の状況を把握するため、主要施設6か所において、年1回調査を行っています。令和2年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止しました。

調査項目および結果については、下記のとおりです。

調査項目：粉じん量（浮遊粒子状物質：SPM）、バナジウム(V)、カドミウム(Cd)、鉛(Pb)、銅(Cu)、ニッケル(Ni)、亜鉛(Zn)、全クロム(Cr)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)

(1) 令和2年度調査結果

実施なし。

(2) 過去の調査結果（平成27年度から令和元年度）

§第五小学校

(単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$ SPMのみ mg/m^3)

年度	測定日	天候	SPM	V	Cd	Pb	Cu	Ni	Zn	Cr	Mn	Fe
元年度	2.2.4~5	曇	0.0040	<0.003	<0.001	<0.005	<0.003	<0.003	<0.003	0.003	0.005	<0.01
30年度	31.1.29~30	晴	0.0093	<0.003	<0.001	<0.005	0.004	<0.003	0.003	<0.001	<0.003	<0.01
29年度	30.1.29~30	晴	0.0097	<0.003	<0.001	<0.005	<0.003	<0.003	<0.003	<0.001	<0.003	<0.01
28年度	29.1.30~31	晴	0.0068	<0.003	<0.001	0.009	0.005	<0.003	<0.003	<0.001	<0.003	0.02
27年度	28.1.25~26	晴	0.0069	<0.003	<0.001	<0.005	0.031	<0.003	0.010	0.001	0.005	0.12
環境基準			0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※「<」の表示は、記載した数値未満であることを示す。

§沢井市民センター

(単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$ SPMのみ mg/m^3)

年度	測定日	天候	SPM	V	Cd	Pb	Cu	Ni	Zn	Cr	Mn	Fe
元年度	2.2.4~5	曇	0.0051	<0.003	<0.001	<0.005	<0.003	<0.003	<0.003	0.003	0.005	<0.01
30年度	31.1.29~30	晴	0.0122	<0.003	<0.001	<0.005	0.017	<0.003	0.007	<0.001	<0.003	0.01
29年度	30.1.29~30	晴	0.0042	<0.003	<0.001	<0.005	<0.003	<0.003	<0.003	<0.001	<0.003	<0.01
28年度	29.1.30~31	晴	0.0058	<0.003	<0.001	<0.005	<0.003	<0.003	<0.003	<0.001	<0.003	<0.01
27年度	28.1.25~26	晴	0.0032	<0.003	<0.001	<0.005	0.008	<0.003	0.005	<0.001	<0.003	0.02
環境基準			0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※「<」の表示は、記載した数値未満であることを示す。

§北小曾木ふれあいセンター

(単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$ SPMのみ mg/m^3)

年度	測定日	天候	SPM	V	Cd	Pb	Cu	Ni	Zn	Cr	Mn	Fe
27年度	28.1.26~27	晴	0.0106	<0.003	<0.001	<0.005	0.028	<0.003	0.013	0.001	0.007	0.15
環境基準			0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※「<」の表示は、記載した数値未満であることを示す。

※北小曾木ふれあいセンターは平成28年3月に閉鎖したため、平成27年度で調査終了。

§ 第七小学校

(単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$ SPMのみ mg/m^3)

年度	測定日	天候	SPM	V	Cd	Pb	Cu	Ni	Zn	Cr	Mn	Fe
元年度	2.1.30~31	晴	0.0084	0.004	<0.001	<0.005	<0.003	<0.003	<0.003	<0.001	<0.003	<0.01
30年度	31.1.31~2.1	曇	0.0089	<0.003	<0.001	<0.005	0.016	<0.003	0.004	<0.001	<0.003	<0.01
29年度	30.2.7~8	晴	0.0061	<0.003	<0.001	<0.005	<0.003	<0.003	<0.003	<0.001	<0.003	<0.01
28年度	29.2.6~2.7	晴	0.0097	<0.003	<0.001	0.008	<0.003	<0.003	<0.003	<0.001	<0.003	0.02
27年度	28.1.26~27	晴	0.0056	<0.003	<0.001	<0.005	0.014	<0.003	0.012	<0.001	0.003	0.03
環境基準			0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※「<」の表示は、記載した数値未満であることを示す。

§ 今井小学校

(単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$ SPMのみ mg/m^3)

年度	測定日	天候	SPM	V	Cd	Pb	Cu	Ni	Zn	Cr	Mn	Fe
元年度	2.1.30~31	晴	0.0098	<0.003	<0.001	<0.005	<0.003	<0.003	<0.003	0.001	<0.003	<0.01
30年度	31.2.4~5	晴	0.0065	<0.003	<0.001	<0.005	0.027	<0.003	0.009	<0.001	<0.003	<0.01
29年度	30.1.30~31	晴	0.0077	<0.003	<0.001	<0.005	<0.003	<0.003	<0.030	<0.001	<0.003	<0.01
28年度	29.1.31~2.1	晴	0.0017	<0.003	<0.001	0.008	0.006	<0.003	0.030	<0.001	<0.003	0.03
27年度	28.1.28~29	晴	0.0100	<0.003	<0.001	<0.005	0.026	<0.003	0.017	0.001	0.005	0.06
環境基準			0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※「<」の表示は、記載した数値未満であることを示す。

§ 新町小学校

(単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$ SPMのみ mg/m^3)

年度	測定日	天候	SPM	V	Cd	Pb	Cu	Ni	Zn	Cr	Mn	Fe
元年度	2.2.3~4	晴	0.0088	<0.003	<0.001	<0.005	<0.003	<0.003	<0.003	0.002	<0.003	<0.01
30年度	31.1.28~29	晴	0.0148	<0.003	<0.001	<0.005	0.014	<0.003	0.024	<0.001	<0.003	<0.01
29年度	30.2.15~16	晴	0.0102	<0.003	<0.001	<0.005	<0.003	<0.003	<0.003	<0.001	<0.003	<0.01
28年度	29.2.7~8	晴	0.0010	<0.003	<0.001	<0.005	<0.003	<0.003	<0.003	<0.001	<0.003	<0.01
27年度	28.1.28~29	晴	0.0165	<0.003	<0.001	0.005	0.014	<0.003	0.024	0.001	0.009	0.16
環境基準			0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※「<」の表示は、記載した数値未満であることを示す。

§ 市役所

(単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$ SPMのみ mg/m^3)

年度	測定日	天候	SPM	V	Cd	Pb	Cu	Ni	Zn	Cr	Mn	Fe
元年度	2.2.3~4	晴	0.0098	<0.003	<0.001	<0.005	<0.003	<0.003	<0.003	0.002	<0.003	<0.01
30年度	31.1.28~29	晴	13.3	<0.003	<0.001	<0.005	0.020	<0.003	0.015	<0.001	<0.003	0.01
29年度	30.1.30~31	晴	8.8	<0.003	<0.001	<0.005	<0.003	<0.003	<0.003	<0.001	<0.003	<0.01
28年度	29.1.31~2.1	晴	0.0033	<0.003	<0.001	0.005	0.013	<0.003	<0.003	<0.001	<0.003	0.04
27年度	28.2.1~2	晴	0.0048	<0.003	<0.001	<0.005	0.036	<0.003	0.025	<0.001	0.003	0.03
環境基準			0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※「<」の表示は、記載した数値未満であることを示す。

浮遊粒子状物質 (SPM) の環境基準：1時間値の1日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること。

6 採石場周辺の大気中粉じん調査

採石場周辺の民家7か所において、大気中粉じん調査を行いました。いずれも環境基準以下でした。

(単位：mg/m³)

調査地点	調査期間	測定値	調査地点	調査期間	測定値
成木 8-368 付近	11. 9～ 11.10	0.020	成木 5-1102 付近	11. 4～ 11. 5	0.018
成木 8-420 付近	11.12～ 11.13	0.017	成木 7-622 付近	11. 5～ 11. 6	0.025
成木 8-853-2 付近	11. 5～ 11. 6	0.022	駒木町 2-435 付近	11.10～ 11.11	0.014
成木 5-1400 付近	11. 4～ 11. 5	0.019	平均値		0.019

※浮遊粒子状物質（SPM）の環境基準：1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。



市内採石場の様子



7 酸性雨調査

酸性雨とは、工場や事業場、自動車から排出された硫黄酸化物や窒素酸化物などの大気汚染物質が、大気中を移流し、拡散している間に太陽光線や炭化水素、酸素、水等の働きで酸化され、硫酸塩や酸性粒子に変化し、雨水に溶け込んで酸性が強くなった雨のことをいいます。（一般にpHが5.6以下の雨を酸性雨と呼んでいます。）市では、雨水の酸性度等を把握するため、市役所屋上にて年12回調査を行っています。

(1) 令和2年度調査結果

採取期間		4.1～	5.1～	6.1～	7.1～	8.3～	9.1～
		5.1	6.1	7.1	8.3	9.1	10.1
分析項目	pH	5.1	5.3	5.0	4.7	5.8	5.8
電気伝導率	$\mu\text{S/cm}$	10	18	11	11	9	11
塩化物イオン	mg/L	0.59	0.77	0.59	0.78	0.98	0.97
硝酸イオン	mg/L	1.54	2.37	1.39	1.40	3.76	2.00
硫酸イオン	mg/L	1.45	1.78	0.88	1.54	2.33	1.77
アンモニウムイオン	mg/L	0.15	0.23	0.08	0.22	0.24	0.25
ナトリウムイオン	mg/L	0.44	0.40	0.42	0.68	0.81	0.45
カリウムイオン	mg/L	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	0.11
マグネシウムイオン	mg/L	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	0.10
カルシウムイオン	mg/L	0.48	0.74	0.58	0.11	1.20	0.44
全液量	mL	3500	3500	3350	3480	920	3530

採取期間		10.1～	11.2～	12.1～	1.4～	2.1～	3.1～	平均値
		11.2	12.1	1.4	2.1	3.1	3.31	
分析項目	pH	5.5	5.8	—	5.8	5.8	5.8	5.5
電気伝導率	$\mu\text{S/cm}$	4	25	—	14	10	10	12
塩化物イオン	mg/L	0.32	2.52	—	1.13	1.21	0.58	0.95
硝酸イオン	mg/L	0.52	2.81	—	1.65	0.63	0.90	1.72
硫酸イオン	mg/L	0.56	1.63	—	1.70	1.12	0.87	1.42
アンモニウムイオン	mg/L	0.56	0.97	—	0.37	0.40	<0.01	0.32
ナトリウムイオン	mg/L	0.10	1.21	—	0.92	0.77	0.35	0.60
カリウムイオン	mg/L	<0.10	0.21	—	0.22	0.10	0.11	0.12
マグネシウムイオン	mg/L	<0.10	0.13	—	0.10	0.10	<0.10	0.10
カルシウムイオン	mg/L	0.31	0.31	—	0.43	1.05	0.56	0.56
全液量	mL	3320	325	<50	1780	1550	3170	2580

※「<」の表示は、記載した数値未満であることを示す。

※12月については、降雨量不足により欠測。

(2) 過去のpH平均値

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
5.5	5.4	5.6	5.3	5.3

8 ダイオキシン類調査

ダイオキシン類とは、ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン（PCDD）とポリ塩化ジベンゾフラン（PCDF）、コプラナーポリ塩化ビフェニル（コプラナーPCB）の3物質の総称です。

市では市内4か所において、ダイオキシン類の調査を行いました。

(1) 令和2年度調査結果

(単位：pg-TEQ/m³)

調査期間	調査地点	ダイオキシン類濃度
8.19(10時)～8.26(10時)	青梅市役所屋上	0.019
	第五小学校屋上	0.011
2.5(10時)～2.12(10時)	青梅市役所屋上	0.0082
	第五小学校屋上	0.0069
	長淵市民センター駐車場	0.0068
	上長淵自治会館	0.0077

※単位：pgはピコグラムと呼び、1兆分の1gを表します。

※環境基準…1m³当たり0.6ピコグラム（pg-TEQ/m³）以下です。

※長淵市民センター駐車場および上長淵自治会館については、冬期のみの調査。

(2) 過去の調査結果

(単位：pg-TEQ/m³)

年度	調査期間	調査地点	ダイオキシン類濃度
令和元年度	8.21(10時)～8.28(10時)	青梅市役所屋上	0.010
		新町小学校屋上	0.012
		長淵市民センター駐車場	0.0090
		上長淵自治会館	0.011
	2.14(10時)～2.21(10時)	青梅市役所屋上	0.014
		新町小学校屋上	0.018
平成30年度	8.22(10時)～8.29(10時)	青梅市役所屋上	0.011
		第五小学校屋上	0.0074
	2.8(10時)～2.15(10時) (長淵市民センター駐車場のみ2.19～2.26に再測定)	青梅市役所屋上	0.013
		第五小学校屋上	0.010
		長淵市民センター駐車場	0.013
平成29年度	8.16(10時)～8.23(10時)	青梅市役所屋上	0.0082
		新町小学校屋上	0.012
		長淵市民センター駐車場	0.0088
		上長淵自治会館	0.014
	2.8(10時)～2.15(10時)	青梅市役所屋上	0.010
		新町小学校屋上	0.025
平成28年度	8.18(10時)～8.25(10時)	青梅市役所屋上	0.0097
		第五小学校屋上	0.0073
	2.9(10時)～2.16(10時)	青梅市役所屋上	0.0070
		第五小学校屋上	0.0083
		長淵市民センター駐車場	0.0078
		上長淵自治会館	0.0092
平成27年度	8.19(10時)～8.26(10時)	青梅市役所屋上	0.016
		新町小学校屋上	0.016
		長淵市民センター駐車場	0.011
		上長淵自治会館	0.013
	2.5(10時)～2.12(10時)	青梅市役所屋上	0.010
		新町小学校屋上	0.015

9 大気中アスベスト調査

市内の一般環境大気中のアスベスト繊維数濃度を把握するため、平成17年度より測定を始め、青梅市役所は定点として毎年測定し、東部・西部地域については、隔年で測定を行い、平成18年度からは年2回の調査を実施してきました。平成26年度からは夏期と冬期の結果に差異が見られないことから、調査内容を年2回2地点から年1回3地点としました。

WHO（世界保健機関）の評価基準によると、「世界の都市部の一般環境中の石綿濃度は1本～10本/L程度であり、この程度であれば、健康リスクは検出できないほど低い」とされています。また、大気汚染防止法において定められた基準値は10本/Lとなっています。

これまでの調査結果は、これらの基準と比べ低い値となっています。

なお、平成28年度までは環境庁告示にもとづきアスベスト繊維数濃度を、平成29年度からはアスベストモニタリングマニュアルにもとづきアスベストを含む総繊維数濃度を調査しています。

(1) 令和2年度調査結果

(単位：本/L)

調査地点	調査日	濃度
		9.4
青梅市役所		0.085
新町市民センター		0.19
梅郷市民センター		0.056

※「<」の表示は、記載した数値未満であることを示す。

(2) 過去の調査結果

(単位：本/L)

年度	調査地点	調査結果	
		夏期	冬期
令和元年度	青梅市役所	—	0.056
	新町市民センター	—	<0.056
	梅郷市民センター	—	0.056
平成30年度	青梅市役所	0.53	—
	新町市民センター	0.56	—
	梅郷市民センター	0.056	—
平成29年度	青梅市役所	—	<0.056
	新町市民センター	—	<0.056
	梅郷市民センター	—	0.056
平成28年度	青梅市役所	<0.2	—
	新町市民センター	<0.2	—
	梅郷市民センター	<0.2	—
平成27年度	青梅市役所	—	<0.2
	新町市民センター	—	<0.2
	梅郷市民センター	—	<0.2

※「<」の表示は、記載した数値未満であることを示す。

10 微小粒子状物質調査

微小粒子状物質とは、浮遊粒子状物質のうち直径が $2.5\mu\text{m}$ 以下のものをいいます。

市では、大気中の微小粒子状物質の濃度を把握するため、平成22年度から調査を始めました。令和2年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止しました。

- (1) 令和2年度調査結果
実施なし。

- (2) 過去の調査結果

(単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

年 度	調査地点	調査期間	調査結果
令和元年度	梅郷市民センター	8.29～8.30	18
平成30年度	梅郷市民センター	3.11～3.12	10
平成29年度	新町市民センター	9.14～9.15	8
平成28年度	新町市民センター	3.7～3.8	7.0
平成27年度	梅郷市民センター	2.23～2.24	17.5

※ μm はマイクロメートルと呼び、100万分の1mを表します。

※単位： μg はマイクログラムと呼び、100万分の1gを表します。

※環境基準（抜粋）…1日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

1.1 放射線量測定

東日本大震災の際、福島第一原子力発電所の事故により放出された、放射性物質による市内の環境の汚染状況の継続監視を行うため、空間放射線量の定期定点測定を実施しました。測定の結果、青梅市放射性物質対応指針に定めた除染基準値である $0.23 \mu\text{Sv}/\text{h}$ を超えた地点はなく、一年を通じ大きな変化は見られませんでした。

(1) 令和2年度の測定結果

(単位： $\mu\text{Sv}/\text{h}$)

測定日 \ 測定地点	第二小学校	第五小学校	成木小学校	新町小学校
4.15	0.04	0.03	0.06	0.05
5.25	0.03	0.03	0.05	0.04
6.16	0.04	0.04	0.05	0.05
7.27	0.04	0.03	0.05	0.04
8.20	0.03	0.03	0.04	0.04
9.17	0.03	0.06	0.06	0.04
10.15	0.05	0.03	0.06	0.05
11.18	0.06	0.03	0.05	0.04
12.11	0.07	0.04	0.06	0.07
1.15	0.04	0.03	0.06	0.06
2.16	0.05	0.04	0.05	0.04
3.18	0.05	0.04	0.06	0.05

(2) 過去の測定結果（年平均値）

測定年度 \ 測定地点	第二小学校	第五小学校	成木小学校	新町小学校
令和元年度	0.03	0.03	0.05	0.05
平成30年度	0.04	0.04	0.05	0.05
平成29年度	0.04	0.04	0.05	0.05
平成28年度	0.04	0.04	0.06	0.05
平成27年度	0.04	0.04	0.06	0.05